「男女共同参画の視点に立った地域の課題解決」のためのプログラムデザイン

【事業名】　私たちの屍を超えて行け！他人事にしない男女共同参画の放課後

【趣　旨】　行政・民間を問わずこれまで男女共同参画に関わる事業に携わった方々と次世代を担う方々の交流（これまでのことを振り返りこれからのことを見据える）を通じて、無理なく持続可能で、かつ多様性と包摂性のある市民と行政による協働の男女共同参画社会づくりの草の根運動。

課題

地方自治体をはじめ行政が行う各種施策が住民に浸透していない。また、この弊害として男女共同参画や男女平等を誤解しているために本来享受すべき権利や地位を自ら無自覚に妨げている。

目的

①他人事になっている「男女共同参画/男女平等」を自分事に取り戻す。
②次世代を担う若者たちを絶望させない。あきらめさせない。

対象

男女共同参画を他人事だと感じている地域住民

連携先

市内中学校、高等学校、市民活動団体

目標

基点・基軸の形成

現状把握

内容

○令和２年度実施　男女共同参画社会に関する市民アンケート
対象：住民基本台帳から無作為に抽出した１８歳以上の男女
人数：男女合計１０００人
方法：郵送送付（返信回収）

【市民アンケートの意見】
・女子が頑張ったところでどうにもならない（10代女性）
・職場は女性進出などを進めているが女性はグループをまとめるスキルが低い（40代男性）
・自分が生きてきた中では男女平等の世の中はあり得ないし、体力的理由などからあってはならないと思う。（40代女性）
・男女共同参画の考え方に違和感。女性はより多忙になった。（30代女性）

方法

アンケート（実施済み）

課題把握・課題共有

○オンライン座談会の開催。（月1回）、対象：過去、男女共同参画事業に関わった方と、これから関わりたい方、あるいは興味がある方などを募集。事前申請の10名は発言可、聴講のみの参加も可（市外OK、人数制限なし）。
内容：経験者の失敗談から学ぶ回、テーマを決め自由にトーク回を交互に実施。住民と行政、経験者と未経験者、誰もが垣根なく気軽に対話できる雰囲気づくり（ファシリテーター１名）終了後は掲示板で全員が自由に投稿。
ねらい：男女共同参画／男女平等への誤解を解く。「事業実施」を終着点にしない継続的な取り組みへの気づき。

男女共同参画推進意識の形成（再）

○オンライン座談会や総合学習出張講座を通じて参加者への宿題(問いかけ)歴史を振り返ってみよう！例えば「参政権」。今当たり前のことは女性達も男性達も闘って勝ち取ってきた「権利」だった。「思考の停止は退歩を意味する。」＝今の普通が普通でなくなることも。（1977年のアメリカの例）
→自分が生まれた年の男女共同参画をめぐる動きを調べてみよう！
NWEC女性教育センター文献検索を紹介。新聞記事などピックアップ。
ポイント：どこかで聞いたことのある「男女共同参画（社会）」を、分かったつもり…になっていませんか？

○楽しく！正しく！義務教育から男女共同参画を学ぶ出張講座。
内容：中学校等の総合学習の時間を利用し、男女共同参画・男女平等を学ぶ。
前半は人気漫画に現れるジェンダーバイアスや、男女平等について絡めた講話。
後半のゲームでは、男女共同参画ビンゴやカルタ。
ねらい：まず、子供たちへ興味喚起を図る。そして、無関心・他人事にしないための問いかけ「今身の回りで起きている普通のことは本当に普通のこと？」

課題解決

課題解決の方策の検討

課題解決のための行動

○市民提案事業へ行政提案型部門の創設(中高生チャレンジ部門)
「わが町の男女共同参画アーカイブ」作成のための中高生特派員派遣事業
対象：応募のあった中高生10～20人。
内容：中高生特派員が、行政や企業、市民団体の関連事業の今・過去を取材し、三沢市の「わが町の男女共同参画アーカイブ」を市と一緒に作成。作成したアーカイブはパネル展示。
ねらい：若い世代が、自分たちのまちでの取り組みを知る活動を通じて地域への愛着形成と、自分たちで考え行動する積極性を身につける活動へ。
○TikTokで面白「あるある動画」配信
中高生特派員が、取材した中で気が付いた自分たちの代まで残したくない「“ダメ”なあるある動画」を作成。シナリオ作りと動画撮影は中高生を主体に三沢市ケーブルテレビジョンに協力を依頼。大人達へはもちろん自分達の同世代へも「こんな大人、どう思う？」というメッセージを発信し、多くの人にまずは見てもらい、気づいてもらい、考えてもらう（啓発）。
出演：三沢市のゆるキャラホッキーナちゃんとほきのすけなど
その他：交通費など必要経費の支給はもちろん、この活動が学生にとって進学や就職の際プラスになるなど、努力した対価も重要。

○オンライン座談会は、男女共同参画に興味がなかった人でも参加したいと思うよう工夫⇒「著名なパネリストをゲストに招く」、「思わず誰かと話したくなるようなテーマ設定」、「老若男女忌憚のない意見交換のための雰囲気づくり」など。
○オンライン座談会での要望や意見などは、既存事業に反映。チャットやアンケート機能による投票を行い、よりニーズに合った講座やセミナーの実施へ。一方で、事業を自分たちで実施したい市民活動団体の立ち上がりや補助金の交付などバックアップを行う。⇒○市民提案事業の行政提案型部門(一般部門)

オンライン座談会・出張講座・協働のまちづくり市民提案事業

振り返り

オンライン座談会・出張講座・市民提案事業の活動は市WEBサイトや各種SNS(主に中高生の拡散力に期待）、パネル展で活動の紹介をしていく。これを繰り返して、毎年年度末に総括し、反省し、改善しながら、繰り返していく。できるだけ誰でも参加しやすく取り組みやすい活動を心がける。

パネル展示・WEBサイトでの紹介